

平成 30 年度 第 4 回 社会教育委員会会議録

開催日時 平成 30 年 10 月 30 日（火）午後 1 時 30 分～

開催場所 恵那市役所 4 A 会議室

出席委員	委 員 長	近藤 慎平
	副委員長	林 達夫
	委 員	磯部 彰
	委 員	山田 恵市
	委 員	鈴木 八枝子
	委 員	柘植 弘成
	委 員	宮地 茂嘉
	委 員	森川 伸江
	委 員	松村 通男
	委 員	田口 容子

説明のため出席した社会教育委員会事務局等

教育長	大畑 雅幸
生涯学習課課長	伊藤 英晃
生涯学習課課長補佐	安田 英明
生涯学習課係長	荻山 勝
生涯学習課総括主査	平林 範子

議 題

1. 平成 30 年度第 1 回～3 回会議録承認
2. 平成 30 年度各課の主要事業・行事予定・施設の利用状況について
3. 第 49 回東海北陸社会教育研究大会報告・交流
4. 平成 30 年度塾長会・主事会視察結果報告・交流

開 会（午後 1 時 30 分）

教育長あいさつ

社会教育委員の皆様には青少年、文化、スポーツなど幅広くお力添えをいただいています。恵那市が生涯学習宣言をしこの秋以降各地域で子どもたちの活躍する場をいくつも提供していただいています。当日だけ参加するのではなく、準備の段階からメンバーの一人として参加させていただいている姿を見て、地域の中で大切に育てられていることが、本当にありがたいと感じます。ひとづくりは、まちづくりという方向の中で振興事務所を中心にかつての公民館長が三学のまち

推進員という名前から、現在では三学塾塾長に変わり活動をしていただいている。しかし、現在の塾長が公民館主事のような立場で仕事をしているという現状もあるようです。

昔であれば公民館長は地元の名士が勤めるという時代でした。もう少し塾長に権限をもたせ、それぞれの地域の特色を生かしたことをやらせてほしいという声を聞くこともあります。

社会教育委員の皆様にもここは、こういう風にしたい方がよいということがあれば是非、ご意見をいただきたいと思います。

議題 1 平成 30 年度第 1 回～3 回議事録承認

議題 2 平成 30 年度各課の主要事業・行事予定・施設の利用状況について

生涯学習課長説明

委 員

スケート場の利用人数の増加について、平成 28 年の夏と今年度の夏の差は「ダイドーキッチン」で食事をした人によるものか、夏のインラインスケートなどの活用によるものか。

美術館の利用人数が 4～6 月は非常に多いが、無料観覧日の効果なのか。また、7～9 月は昨年に比べ減少しているようですが、理由が明確にあるのか。図書館はその逆です。

生涯学習課長

利用人数の増加は新しい食堂と、天使の羽による効果が大きいのと思われます。食事だけの方もみえますが、それに伴いインラインスケートを楽しまれる方も増加している。インラインスケートの靴の貸し出しも増えているところから相乗効果があったと考えられます。

二点目ですが、半分青いの関係でツアーが組まれています。岩村のツアーがメインですが、美術館が含まれているものも多くその要因がひとつ。フリーライダーとの関係は旅行会社が無料になる金曜日をツアーに設定している傾向があると聞いています。しばらくは朝ドラブームが続くと思いますが、最近は少し落ち着いてきています。それも人数が減少してきている要因だと思います。

図書館については、今年の夏大変暑く涼みにくる方も多かったと報告を受けています。

また、美術館はフリーライダーに伴い入場者数がふえ、入館料が無料ならシ

ヨップで記念になるものを購入しようということで、売り上げはかなり増えています。

委 員

相乗効果を期待できることを考え、クリスタルパークもついでに何か購入できるようにするといいいですね。例えば野菜の販売とか。

生涯学習課長

ファミリーで来ても楽しめるような遊具的なものの導入は考えているようです。

議題3 第49回東海北陸社会教育研究大会報告・交流

委 員

分科会では社会教育委員の役割と課題へ出席をしました。事例発表で瑞浪市が「公民館の現状把握から地域課題の解決策を考える」というテーマで提案がありました。社会教育員が瑞浪市すべての公民館を回り、三つの視点から公民館を分析し提言をだしていくという内容でした。今恵那市も進めようとしていていることと同じであると感じました。

前回恵那市の社会教育委員は山岡コミュニティセンターで開かれた塾長会議に出席しましたが、会議の方法に疑問を感じました。その地域の取り組みだけを聞くのではなく、そのことからそれぞれの改善点や見習う点などを議論するような会議にするべきだと思います。瑞浪の発表のように「目標」「着眼点」「方策」ということを明確することによりコミュニティセンターの職員が向かう方向に対し社会教育委員が提言をする。これが社会教育委員の仕事でもあります。

東濃地区の社会教育委員の活動回数はほとんど一緒だと思いますが、他県やそれ以外のところでは、年2回というところもあり名誉職のように感じるところもあるようです。これでは社会教育の役割は果たせないように感じるし同じ土俵で話せないように感じました。

委 員

家庭教育支援の分科会に出席しましたが、昔社会教育とは何かと聞いたところ、学校教育以外は社会教育だと言われましたが、本当に幅広いと思います。今回の事例発表は高浜市の「子どもと向き合い、触れ合う父親たちの取り組み パートⅡ」をテーマに提案がありました。PTAの役員だった方が、そのまま社会教育委員になり、活動しているので学校との連携はすごくとれているが、社会教育委員はその方一人が参加しているので、高浜市の社会教育の活動としては、焦点がさだまっていないように感じた。記念講演の安田先生の話聞いて、すごく重い課題をいただいたように思う。学校教育の中に社会教育がどのように入っていけば

よいのか。今後コミュニティ・スクールを活用し、研修で学んできたことを役立てていかないといけないと思います。

委員

青少年健全育成の分科会に出席しました。富山県射水市の提案は社会を明るくする運動を展開し犯罪非行防止をテーマに小中学生に作品募集し啓発活動をしていく。またケーブルテレビをとおして啓発動画を流し、家庭も一緒に取り組もうというような内容でした。また、家庭用に啓発ポスターなどを配布し、社会を明るくする運動の一助としている。また毎月25日を「あったか家族の日」として、小中学生を地域の行事に参加させていくという発表でした。もう1ヵ所、岐阜県下呂市は「青少年の地域活動を促し自己有用感とふるさと愛を高める」をテーマに提案がありました。中学生と地域が強く密着し「ふるさとジュニアサポーター」として各地域のイベントに参加するというものでした。ウォーキング大会やマラソン大会での受付や給水、各地域のお祭りの販売ブースや共同募金の手伝い、観光イベントのパンフレット配布、夏休みの児童館ボランティアなど下呂市は、教員を8年された方が、社会教育主事として取り組んで4年ということでしたが、社会教育主事が計画したことを校長会へ相談し、了解をしていただきどんどん進めているということでした。この主事が社会教育委員と青少年育成推進員と連携し、地域と中学生や学校とをコーディネートしているという発表でした。

議題4 平成30年度塾長会・主事会視察結果報告・交流

委員

主事会と塾長会と進行の仕方を比べると主事会の進め方の方が良いと思います。それぞれの地域の主事が意見を言い、それに対し社会教育委員が意見をいうことができる。お互い勉強になった。それに比べ塾長会は発表に対しそれぞれ感想を述べるだけに終わり意見を交わすところまではいかなかった。塾長会は今後会議の進め方を検討するとよいと思います。また、塾長は自分たちのコミュニティをどういう方向にもっていこうというイメージをもってみえるのかどうか。それがなければ改善もできない。

課長補佐

そういうものをもってみえると思いますが、確認したことはないので、塾長会で話題にしたいと思います。

委員

主事と塾長と話す機会があるが、そこに微妙な温度差がある。確かに塾長会を折角開催するなら、どのぐらいの頻度で、何を目的に、どのように進めてい

くのが良いのかをこの視察をもとに事務局や社会教育委員も一緒になって検討するとよいと思いました。

委員長

公民館運営協議会があったときは、公民館はどうあるべきか。何が課題なのかということを中心に話しあってきました。この公民館運営審議会にかわるものがあるならその委員会に塾長も参加するべきだと思います。そうしないと委員会と塾長会がバラバラで、何のための委員会なのかがわからない。コミュニティの充実にどういう形で寄与するのかをこの1年の反省を元に考えていかないと、ただ会議をやって終わりましたでは残念なことです。どうでしょうか。

委 員

塾長は地域の核になり、人との関係づくりをしていかななくてはいけない。それを象徴するような人選も必要だと思います。

委 員

なり手がないのも事実ですね。昔のような名誉職でない。

委員長

振興事務所の所長さんとの関係もあり、立場的に難しいと思います。

委 員

地域にいろいろな組織がありすぎて、塾長はその一員のような立場におかれ独自でできるのは三学のところだけのように思う。塾長は自分のペースで何かをしようと思ってもできない状況にあると思います。社会教育委員としてこういうことを問題提起していくことも大切だと思う。地域のコミュニティはどうあるべきか。

委員長

視察を終えた後の塾長の感想の中には、逆に社会教育員の活動がみえてこないという意見がありました。社会教育委員として今後どう変わっていくのかということも課題ですね。

委 員

地域で社会教育委員の立場がないですね。位置づけがない。三学委員もやっているのに、地域ではそちらの立場で参加することはあるが、社会教育委員として参加するところは、どこにもない。三学と社会教育の関わりが地域によって違うし、社会教育委員の立場も曖昧です。コミュニティが何をやる場所なのか。公民館活動みたいなことをやるのか。三学の教育活動をするのか。守備範囲をはっきりさせることが大切ではないのか。地域のことまで塾長がやる

となると振興協議会長との兼ね合いもある。振興協議会のなかの文化教育活動の中心となるのが塾長だとしたら立ち位置がはっきりしてくる。所長はまちづくりの中核なので、全体をみる振興協議会長は町全体としぼらないとイメージできないし、塾長もそのあたりで困って見えると思う。

委員長

将来的には塾長会がもう少し成熟してくると何をやるべきかと言うことが明確になってくると思います。社会教育委員の中に瑞浪のように塾長が一人入って課題などを話し、それに対し社会教育委員が意見し会に持ち帰ってもらい、話題にする。そういうこともひとつの方法のように思います。守備範囲を明確にし、連携することを考えていかないと今のままでは本当に難しい。

委 員

社会教育委員は、各地域から選出されているわけでない。各地域がどのように考え、どのように活動しているのかを学び、このような場で伝えていく役割があると思います。重点目標の中にコミュニティセンターは、地域のまちづくりの拠点であると挙げられていますが、本当にそのとおりだと思います。中野方ではふるさと文化まつり等は、その代表的な活動のひとつだと思いますが、当日を迎えると本当に子どもから高齢者まで多くの方が係わりつくり上げていて、町民がもっとも集まり、一人一人の公民館活動を見たり、勉強したりする良い機会でもあります。高齢化、少子化と言われ町はもうだめになると言われているからこそコミュニティセンターやその活動を大切にすべきだと思います。ボランティアの子どもたちが準備段階から活動に加わり、それに大人が声をかけ大変素晴らしいと感じた一日でした。塾長や主事や振興事務所の職員が一体となって日頃の取り組みや考えを労うことも大切なので、塾長会や主事会をきっかけにコミュニティ活動がすすんでいくといいと思います。公民館のすごいところは、以前中野方でかるたを作ったときに予算がありませんでしたが、そのとき公民館の館長会で話題にいただき文部科学省の補助金に手を挙げていただき一気に活動が進んだ経緯があります。また、町民の方に呼びかけていただいたりしてみんなで取り組むことによって、カルタを作ると言う課題がクリアできました。これこそ本来の公民館活動だと思います。これをきっかけに公民館活動が好きになりました。後期からガイドブックを配布しなくなりましたが、中を見ると沢山の勉強をする機会があります。今はできなくてもいつかはやりたいと思う人がいるかもしれないので、配布ができればと思います。主事は休みの日によその講座に受講生として参加し、良い講座だと思うと次回自分のコミュニティセンターの講座に取り入れ、見えない努力をしている。こういう姿をやはり褒めていただくようなことがあるといいと思います。

委員長

その他はよろしかったですか。

次回の社会教育委員会ですが、平成 31 年 1 月 29 日（火）を予定しています。コミュニティ・スクールについて、教育長よりお話しをいただきますので、ご出席のほどよろしくお願いします。

本日はどうもありがとうございました。

午後 3 時 50 分閉会

平成 30 年 10 月 30 日（火）

社会教育委員 近 藤 慎 平

社会教育委員 林 達 夫